

北海道剣淵高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和2年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	・科目の研修を深め、特色ある農業教育の推進に努める。	B	・知識の注入から生徒自身が主体的に学べる授業の工夫。 ・小中学校との連携学習の活用。
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	・海外実習（ニュージーランド）を通して、世界と日本の農業や文化の違いを学ばせる。	A	・事前学習を実施し、予備知識を身につけさせる。実習後には、報告会で多くの生徒や関係者に学んだ見聞を広める。
	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	・剣淵・生命を育てる大地の会の会員となり特別栽培米を栽培し、地域農業を理解するとともに、農薬や化学肥料の使用を減らした栽培体系を学ばせる。	A	・3年次作物の授業で、農薬や化学肥料の使用を減らした栽培を実践し、低たんぱく質米（6.8%未満）を生産する。
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	・2年次における産業現場実習や農家委託実習において、地域産業の仕事に従事することで、地域産業の理解に努める。	A	・産業現場実習9日間、農家委託実習10日間において、農業関連産業に従事し、地域の農業理解や関連産業の重要性を理解する。
II 地域社会・産業 に寄与する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	・草花栽培では、環境負荷低減の取り組みを継続しながら、地域環境作りに貢献できる花作りを行う。	B	・次年度に生きる記録を残し、無駄のない生産体系を目指す。 ・低温でも栽培できる植物を選択し、灯油使用料を極力制御するが、降雪によりハウスが倒壊しないよう暖房を最小限にする。
	⑥「食農」教育を推進します。	・小中高連携教育により、種をまき、作物を育てて、収穫して大切にいただくことで、農業を知ってもらい、食を支えている農家の方への感謝の気持ちと、生き物をいただいているということへの理解を深める。	B	・高3野菜の授業で小学生全学年に栽培活動の指導。 ・高3作物の授業で小5に田植え、稲刈り体験 ・高2野菜の授業で中2に菜園活動の指導
	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	・町花エゾリンドウの増殖を図り、地域に町花を普及（公共施設への定植など）させる。	B	・播種から育苗、定植まで農業学習の中で学び、地域資源確保のため、増殖栽培を行う。
III 地球環境を守り 創造する学校	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	・地域の販売会などに積極的に参加し、地域に開かれた学校の推進に努める。	B	・販売会ごとに希望生徒を募り、実際に生徒が生産した農産物を販売する。地域交流の拠点の場としてコミュニケーション能力を高める。
	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	・関係機関との連携を積極的に行い、地域に根ざした専門学習となるよう充実を図る。	A	・上川総合振興局北部耕地出張所、てしおがわ土地改良区、JA北ひびき、旭川開発建設部名寄農業開発事業所の方を招き出前講座を実施し、地域農業への興味関心を高める。
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	・定期的に防火査察を実施し、日頃から防災意識を高める。	A	・毎月1回必ず防火査察を実施し、万が一に備えた防災教育を推進する。
	⑪「地域防災を推進する」教育を行います			
V 地域防災を推進 する学校				